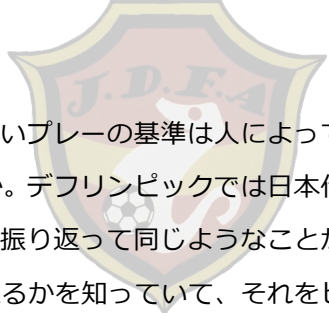


## 【 世界との差 】



ワールドカップがあつという間に終わってしまいました。世界中が注目する4年に1度の大会をみて良いプレー、悪いプレーの基準は人によって違うと思いますが、全力で必死になって国を背負ってプレーしている選手をみましたら感動したのではないのでしょうか。デフリンピックでは日本代表はまだ決勝トーナメントに進出した経験がありません。勝つために何が足りないのでしょうか。今回のW杯のことを振り返って同じようなことがいえるのではないのでしょうか。「最も大きな問題は、強い精神力の欠如だと思う。上位チームは自分たちに何が出来るかを知っていて、それをピッチ上で実行することが出来る。日本は、自分たちの能力については分かっているかもしれないけど、それを実行することが出来ない。つまり、日本と上位チームには大きな差があるということ。決めるべきところで決められないのは、技術の問題であると同時に精神面の問題でもある。」「W杯では、選手たちがボールを自分のものにするため、すさまじい勢いでぶつかり合う。また、ジャッジの基準はヨーロッパにあり、少々の身体接触ではファウルを取らない。アジア勢のなかでは大柄でフィジカル・コンタクトに強みを発揮する韓国でさえ、完全に当たり負けていた。また、中南米の選手は小柄だが頑丈な体格をしており、体の使い方がうまく、自分たちより大柄な選手にもほぼ互角に渡り合っていた。」「きちんとした守備をベースにしていかないと、1点取られたら、2点は取れない。まだ同じレベルで戦えるわけじゃない」「日本人のレベルはすごく上がってきていると思うけど、自分の力を常に100%出し切ることができない。やっぱり、世界のトップクラスの選手は、こういう大舞台でも活躍する。こういうプレッシャーのかかる大会の中で、100%に近い力をアベレージで出せるようにしないといけない。自分の能力を常に、いかにして100%に近い状態で出せるかが今後の大きな課題だと思う」いろいろな意見がでてきていますが、まず自分の失敗を、スタジアムの芝が悪い、暑くて集中できない、審判の判定に納得できない、味方のパスやサポートが悪い、など他の責任にするのではなく、すぐにボールを失ったら攻撃から守備に切り替えて次のプレーを行ってください。いままでの合宿や視察の中で、相手からのプレッシャーが強い時に自分のいいところをだせない選手がいます。逆に相手が強かろうが弱かろうが変わらずに落ち着いてプレーできる選手もいます。代表選手は試合中のプレッシャーがある状態の時にどれだけできるかが大切であって練習でいくら上手くできていても意味がありません。アジアや世界で戦っていく上で普段から向上心を持ち、試合のとき以上の意識で練習に取り組んでいくことが大切です。できることを増やしていけば、徐々にできないことが減っていきます。相手のボールを奪うためにどうすればいいのか？相手のゴールするためにどうすればいいのか？もっとサッカーを楽しみながらシンプルに考えていってください。